公益財団法人 日本骨髄バンク 第88回 業務執行会議 議事録

開催方法：コロナ禍の影響によりWEB会議形式で開催
（本会議をWEB開催することに関して全理事の同意を得た）
日　　時：2023年（令和5年）2月17日（金）17:10～18:40
出　　席：小寺 良尚（理事長）、岡本 真一郎（副理事長）、佐藤 敏信（副理事長）
浅野 史郎（業務執行理事）、加藤 俊一（メディカルディレクター）
石丸 文彦（理事）、鈴木 利治（理事）、瀬戸 愛花（理事）
高橋 聡（理事）、橋本 明子（理事）、日野 雅之（理事）、福田 隆浩（理事）
三田村 真（理事）、藤井 美千子（監事）
欠　　席：鎌田 麗子（理事）、椙村 岳央（監事）、
陪　　席：佐久間 清光（公認会計士）
事 務 局：小川 みどり（事務局長兼医療情報部長兼広報渉外部長）、田中 正太郎（総務部長）
中尾 るか（ドナーコーディネート部長）、関 由夏（移植調整部長）
戸田 泉（ドナーコーディネート部ＴＬ）、竹村 肇（総務部）、荒井 茂（総務部）
上原 淳（総務部）

（順不同、敬称略）

1）　開会

開会にあたり小寺理事長が挨拶した。

2）　業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により本業務執行会議が成立した。

3）　議長選出

業務執行会議運営規則第5条により業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、小寺理事長が議長に選出された。

4）　議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第8条により議長と出席した副理事長が記名押印する。小寺理事長と岡本副理事長、佐藤副理事長がこれに当たるとされた。

5）　議事録確認

前回（2023年1月13日）の臨時理事会議事録を全会一致で了承した。

〔議　事〕

6）　協議事項（敬称略）

（１）令和5年度事業計画案と予算案の原案提示

事業計画案

小川事務局長兼医療情報部長兼広報渉外部長が資料に基づき説明した。

1 頁目は概況でこれまでの歴史と今置かれている現状を記している。本事業計画の基本数値である。国内の移植件数 1000 件を基準に置いた。基本方針は 3 点で、若年ドナーのリクルート。ドナー登録してくれた人のリテンション対策。コーディネート期間短縮。この 3 点を重点課題として取り組む。

普及啓発事業である。ドナープールの高齢化に伴い 3 年後からドナープールが急速に縮小していく。そのため 30 代以下の若い人たちのドナー登録者を年間あと 1 万人増やすことが必要である。それを達成するための方策として、「ＳＮＳ活用・ホームページ刷新」「大学との連携強化」を実施し「ドナー登録時ＨＬＡ検査にスワブ導入」を目指し準備する。そのために、まず全国の都道府県やボランティアに対して「30 代以下の新規ドナー登録者を年間あと 1 万人増やす」という目標を周知し、若年層の登録推進を図る。さらに大学でのドナー登録推進である。大学の中にはボランティアサークルがある所がある。そのような所のメンバーを対象にしてその人たち自身が学内の登録会を企画して実行できるように今後そのような人たちを育てたい。教育機関での登録会を企画、開催できる説明員は全国にたくさんいるが、さらに増やしていく。大学の多い場所を中心にそのような説明員を増やしていく活動をする。それから教育機関での「骨髄バンク講演会」開催である。語りべの講演会開催を継続して、さらにリモートをもっと積極的に取り入れて講演回数を増やしていく。文部科学省主導の「がん教育」事業との連携を目指し、教育の場で骨髄バンクへの認知度や理解を高める。まずは関東圏で実施して段々広めていきたいと思っている。ユースアンバサダーをもっと活用し、若年層に向けた普及啓発活動を考え実践していただくことを考えている。それからＳＮＳを通じて認知度を高める。ＳＮＳ等をきっかけにバンクのホームページを訪れた若者の興味を引き付けるようホームページを刷新する。今夏にリニューアルをリリースできる予定である。SNS については、まず Twitter に力を入れ始めている。その後 YouTube や Instagram も活用していければと思っている。ドナー登録時には必ず LINE の友達登録をしていただくように日赤と協力して、そのような呼びかけができるように体制を構築する。LINE を使ってリテンションに繋がるコンテンツを発信したいと思っている。日赤と話し合いながら取り組んでいきたいと思う。次にメディアリレーションである。バンク内外で色々なイベントがあるが、そのようなイベントや話題に絡めて発信の機会を増やしていく。メディアとの良好な関係を築いて社会の認知度や理解を深めていきたい。スワブによるドナー登録時ＨＬＡ検査導入に向けた準備である。令和 7 年度の本格導入を目指して様々な準備をする。都道府県との連携である。毎年 11 月に都道府県骨髄バンク担当者会議を開催している。各県から 1 人ずつ参加していただいている。その前の月の 10 月が骨髄バンク推進月間であるから、10 月に色々と取り組んでいただくが、今年はその月間の前にこれを開催して「他の県ではこんなことをしてこんな成果が出たのですよ」といった例を紹介して、手本にしていただけるよう前倒しして開催しようとしている。ドナー休暇制度である。適合したドナーが自分の勤務先にドナー休暇制度があるかどうかを適合通知画面で確認し、勤務先がリストに載っていなくて、ドナーが勤務先にドナー休暇制度を導入して欲しいとなったには、バンクに連絡していただければバンク担当者がその会社の人事の方に直接説明させていただくことが現在可能になっている。その適合ドナーがドナー休暇制度を使うのに間に合うように制度を導入できるかどうかは分からないが、そのようなことをきっかけにどんどん広めていきたいと考えこの取り組みを始めている。それから寄付ルートの拡大である。相続寄付や遺贈が日本でも広まって来ているので、色々な所でそのような考えの方に「ぜひ骨髄バンクをお願いします」と話をしてい

く。それから骨髄バンクに寄付することの意義、事業の重要性をどんどん発信して「ここに寄付するのは良いこと」と感じていただく。そしてホームページ上で寄付しやすくなるよう画面上の工夫をする。ＡＣジャパンに今回も採用していただいた。7 月から新しい広告になり、テレビやラジオの空き枠で使っていただいたり、駅の空いている所に貼っていただいたりというのはこれまで通りであるが、それに加えて大学や健診センターなど効果を期待できる場所への掲示を働きかける。

連絡調整事業である。2020 年度の期間短縮WGを機に、現行の枠組みの中で改善できることをこれまで多々取り組んで来た。例えば、適合したドナーへの通知、それに対するドナーからの返信をスマホ上でできる仕組みを導入し、この行程が 5 日短縮された。他に確認検査判定の運用を見直した結果、ここも 3 日短縮した。しかし一方で、適合から提供まで全体を通した期間は縮んでおらず逆に 1 日増えた。今年度はこの期間短縮に向けてより大幅な改変も視野に検討を進めていく年にしたい。専任判定医師の本格稼働。確認検査行程まで専任の医師が適格性を判定することにより効率化を進め期間短縮につなげる。今トライアル中で今年 6 月くらいから本格稼働する予定で進めている。確認検査面談のリモート化促進。確認検査では 2 つのパートに分かれていて、「コーディネーターとの面談」と「医師による問診・採血」の 2 つで確認検査が行われる。「コーディネーターとの面談」をリモートで事前にやっておいて確認検査の日には「医師による問診・採血」だけのためにドナー1 人で確認検査の調整医師のいる施設に行っていただく。今は 2 つのパートを合わせているのでドナーの拘束時間がとても長く、約 2 時間かかっている。そのためドナーは少なくとも半日仕事や学校を休まなければならない。施設滞在時間が長いのでドナーにとっては休みの調整や仕事の引継ぎなどで確認検査の日程調整に日数を要する。この 2 つを分けることで施設滞在時間を短くしてドナーの利便性を高め、応諾率向上、期間短縮に繋げる。個人情報保護対策を引き続き強化していく。細かい点にも注意し、関係者にも情報共有しながら対策していく。ジーラスタであるが、今はジーラスタの使用を血縁移植で行っているところである。200～300 例揃った段階で非血縁ドナーでも導入するか検討を開始し準備する。

（主な意見）

＜小寺＞　従来の事業計画に比べて簡潔に、しかしやるべきことは非常にたくさんあるのだがまとめてもらった事業計画である。

＜加藤＞　具体的に何をやるのか明確に示された。ゴシック体になって読みやすくなった。全体として良い事業計画案だと感じた。事業計画に直接関係することではないが、2022 年暦年の主な実績があり末梢血幹細胞移植が 307 件で前年 302 件と比べて、これまでの年ごとの増加の傾向が止まったのかどうか気になった。日野先生や福田先生は現場で何か感じられるか。

＜日野＞　コロナ禍で骨髄が約 15%減る中で末梢血は微増であるが若干増えている。末梢血のドナーも直前でコロナに感染したりすることがあった。実際きちんと計算してみないと分からないが、骨髄ほど減っていないということは逆に言うとその分増えているのではないかという気はした。

＜小寺＞　3 頁にある大学との協力というのは、具体的にいつ頃に大学祭をするだとか、そのような計画が色々あると思うが、全国で協力を依頼する大学のリストを作っているのか。

＜小川＞　広報渉外部で具体的な大学名をあげて作り始めている。

＜小寺＞　場合によってはここにご参集の理事の方々にも、大学祭などの場所に出て行ってもらうとか依頼できるかもしれないと思うので、リストは理事の皆様全員に配布するようにして欲しい。

＜小川＞　まず東京から取り組んで行きたいと思っている。

＜小寺＞　東京だけなのか、関西を含めるのかは任せるが将来的には全国津々浦々やるようにするということか。

＜小川＞　多くの地方ですでに取り組んでいるが、東京での取り組みが遅れているので進めていきたい。

＜小寺＞　スワブは令和７年度本格導入を目指すということだが、既に血縁間では厚生労働科学研究の豊嶋班で血液と差がないと出ているので、なるべく早くトライアルからでも始められたら良いかなと思う。もう１つ、都道府県との連携で例年11 月開催を前倒しするというのだが、地方行政の予定と絡んで実際には難しいのではないか。大丈夫か。

＜小川＞　たぶん大丈夫だと思う。各県から１人ずつの出席であるので調整すれば何とかなると思っている。

＜小寺＞　担当者が集まるのか。

＜小川＞　はい、ＺＯＯＭで集まっていただく。

＜小寺＞　そこで集まってもらって各都道府県に年度末にやっとやってもらうのではまずいのか。

＜小川＞　10 月は全国の都道府県からポスターを送って欲しい等、色々取り組んでくださるので、ポスター以外に何をして欲しいかを明確に伝えたい。

＜橋本＞　コーディネート期間短縮で３日間短縮と５日間短縮できたと聞いてすごいなと思ったが、逆に全体的に延びたのはなぜか。

＜小寺＞　コーディネート期間を延ばしている大口の部分である。力を入れてやりたいのは５頁にある確認検査面談のリモート化促進である。ここが 17 日くらいかかっていたと思うが、これが劇的に短縮されるのではないか。もう１つは、ここに書いてないが最終同意から採取に至るまでの期間が実は１番長い。ここはバンクがあまり関与できない部分である。ここに関しては全国に 12 の移植拠点病院があり、移植拠点病院には行政から年間 3000 万円くらい予算が出ていて３つある課題の内の一つがバンクドナーからのコーディネート期間の短縮である。拠点病院に力を入れてもらってぜひ早く採取施設が決まりそこで採取できるように日野理事たちの地域をモデルにしてやって行きたい。

＜日野＞　数字だけ見れば確かに期間短縮になるのだが、一方で患者の第一希望日の移植を目指すのが大事だと思っている。近畿は７割から８割が第一希望週で移植を受けられているので、それが１番適切な時期なのかなと思っている。

＜小寺＞　ＳＮＳを使って若年層ドナーをあと１万人増やすということであるが、これには瀬戸理事が関わって努力されている。ツイートしながらフォロワーを鼠算的に増やしていこうということか。

＜瀬戸＞　やはり若者の認知度が低すぎるので、フォロワーが増えるというのはバンクに関心を持ってくれている人たちがいるということ。その人たちのフォロワーが

さらに拡散して行くと知名度だけでなくて内容的なところも拡散してもらえるのではないかと期待している。

＜小寺＞　たしかに若者の認知度が意外と低いので、これを上げるということが必要である。

＜岡本＞　非常によくできた事業計画書だと思う。全部で項目が 12 くらいあるが、おそらくこれを全部同じウエイトでやるという訳ではないので、この中でも事務局の中で整理してもらって、どれに注力するかをしっかり頭に入れて計画を立てていただきたい。喫緊で何が必要かということでプライオリティをつけながらやっていただくのが良い。それから学校に出向いてやるのにぜひ理事を招いて欲しいとのことだが、韓国では事務局の 1 番イケメンが女子高に行くとかそのようにやっている。そのような事にも気をつけてアトラクティブにやって欲しい。

＜小川＞　コーディネート期間のことで前半の部分はできるところから短縮していて、いよいよ採取に向けた調整のところでどうしても時間が掛かってしまう件である。採取施設に今後も協力をお願いしたいが、事務局でも工夫できるところはあると思っているので今年度取り組みたい。

＜小寺＞　これはまだ案であるので今度の理事会までに修正がありましたらぜひ事務局にメールで知らせていただけたらと思う。電子媒体の方が直しやすいと思うのに送って皆様の意見を吸収して欲しい。

＜福田＞　コーディネート期間短縮の研究班と拠点病院に両方絡んでいるのでコメントである。最後のステップというところがやはり 1 番難しくて特に関東地方は非常に苦労しているのが現状である。この前、関東地区の移植拠点病院である当院と駒込と虎の門とバンクで個別に 1 時間くらい話したところでも、色々と問題点があるのだが、他所の地域から関東は時間が掛かるからだいぶ先の時期を移植希望として出されることが多くて、それで期間が延びてしまっている部分がある。短くするのに取り組んで運動しているということを全国に周知する。可能であれば早めの週を希望に出してもらうようにするしかないのかなと考えているところである。地域の人口当たりの採取病院数が少ない地域もあり、かなり一杯一杯のスケジュールで頑張っている所もある。そのようなことで採取病院を増やそうにも移植の病院自体が元々少なくて苦労しているところもある。中々根深い問題で時間が掛かっている。

＜小寺＞　例えば 2 か月以上先のものは受け付けないとか、そのようなことをした方が良いということか。

＜福田＞　そのような訳ではなくて、関東も短くなるようにしたいと皆思っているが、他の地域から関東は時間が掛かるからこのくらいが現実的な目標だろうと遅めの日程を提示されることが多い。近畿は早くても大丈夫だから早めの希望を出すというのは採取を頑張られている効果で関西地区が常にトップである。関東地区でも頑張りたいが中々進んでいないのが現状である。

＜小寺＞　それは事務局やコーディネーターの問題か。

＜福田＞　色々な問題が複合的にあって「この数字を教えてください」とこの前にバンクにお願いしたところで継続して関東 3 拠点協力してやって行こうと思っている。

＜小川＞　データ上も実は患者の希望時期からそんなに大きく外れていない。患者が希望した時期に調整できている。後から見たデータではそうなっている。ただその希望自体が本当はもっと早く移植したいのに、早い時期に希望しても調整できないだろうから遅めの希望を出す現実がある。なぜなら患者の治療の計画を立てたいから、早い日程を希望したが故に中々調整が付かなくて結局１カ月も延びたのでは逆に良くないので長めの日程で希望を出している現状がある。そのようなことでデータ上は希望に応じた移植ができているかのように見えるが実際の状況はちょっと違う。

＜日野＞　近畿のシステムを作った時の最終形として考えていたのが、所謂レストランにあるメニューのような形を考えていた。空いている日を全部提示してそこに入れてもらうのをイメージしていた。先ではなく空いているのだからそこが埋まるだろうと考えていた。もしそれができるのであれば、本当に希望時期に取れると思う。もし全国にそのメニューがあれば、場所は違うがそのようなこともできるのではないかと思っていた。

＜加藤＞　地区間の差があると初めて聞いた。ちなみに関東地区と近畿地区ではどれくらいの差があるのか。10 日くらい違うとかおおよそで結構である。

＜関＞　　ドナー指定から採取までの日数で言うと 20～30 日くらいの差はあったと思う。

＜中尾＞　採取行程を平均値で見るとあまり変わらない。

＜小寺＞　平均値ではなく中央値で出すとか、最短と最長を出すとか、少し今後の行動に反映できるようなデータは出した方が良い。一遍データを詳しく作って欲しい。

＜日野＞　以前は長い地区があったので移植調整部に問い合わせて、その地区であれば「いつぐらいでできますか」と聞いてから希望日を出していたことがあった。今もそうだろうか。

＜関＞　　今もそのようなケースがあるが、移植調整部では患者が希望している本来の時期を出して欲しい、ドナー側もそれに向けて調整すると伝えている。

＜小寺＞　もう１つは関東と関西の違いで、関西では早いところで良いですよということであるから、どうせ長くかかるだろうという関東地区のような考えは払拭してもらうということである。バンクとしての実績が必要なのだが、それをやって行った方が良い。

＜三田村＞　事業計画全般で提案である。色々なテーマを今課題として抱えていると思う。コーディネート期間短縮もあるし若年層ドナーを増やすこともある。テーマごとに例えば理事をグループ分けして、このグループの課題に対して数名の理事で集中的に取り組むと言ったことも含めて、例えば大学に行って説明するのもそうだし、ドナー休暇制度を導入していない企業に対しての説明を理事も率先して行う等のことも含めて、ワークアップの仕組みを事務局と一緒に我々も動くためにも役割分担できればという提案である。

＜小寺＞　岡本副理事長も言われたが濃淡をつけるということ、場合によっては理事をインボルブしながらやれることを明らかにしておくこと。そのようなことを基にして、まだ１次案でいくらでも変更できるので理事の皆様方の追加をお願いする。

予算案

田中総務部長が資料に基づき説明した。

A3 縦の正味財産増減計算書と A4 の簡略版の 2 種類配布している。A3 の方は科目が多く細かいため A4 の簡略版で要点を絞って説明する。まず結論として収入と支出の差し引きである。令和 5 年度は約 1900 万円の赤字予算となっている。

収入面について移植件数 1000 件、寄付金収入は約 1 億 4400 万円を想定している。令和 4 年度は移植件数 1200 件、寄付金収入は約 1 億 4000 万円を想定していた。令和 5 年度の経常収益計が約 14 億 3000 万円を見込んでいる。令和 4 年度との差で約 1 億 2000 万円の収入減となっている。こちらの主な要因は移植件数の想定が大幅に減少したことによって医療保険財源収益および受取患者負担金の減少が主な要因である。

次に支出である。経常費用計は約 14 億 5000 万円となっている。令和 4 年度と予算比で収入と同じく約 1 億 2000 万円減っている。かなり支出を抑えた形になっている。主な削減項目をお伝えすると、これまで経年的に上昇していた職員の人件費が大きく減少している。定年を迎える職員が数名いることと、退職者や休職者が数名出たことによるものである。また派遣職員の契約見直しをしている。移植件数の減少に伴って事務作業が減っていることもあるし、業務の効率化をして派遣職員の人数の見直しをした。この 2 つで約 5000 万円の支出減となっている。次に移植件数の減少に伴う費用の減少である。コーディネーターや調整医師の活動費や交通費、ドナー保険料、検査費用、負担金免除費用などがこれに当たる。これで約 4500 万円支出減となっている。次に令和 4 年度にリプレイスをしたコーディネート支援システムの旧システムの一定期間維持等に掛かっていた費用が数百万円掛からなくなる。さらにブラッシュアップ研修会を令和 5 年度もオンライン開催にする。また全国大会の開催方法の変更を考えている。そのようなところで費用の削減を図っている。削減ばかりでなく前向きな支出を計上している。事業計画にも出て来たが公式ホームページの刷新費用である。令和 4 年度から 5 年度に跨って実施している。ＳＮＳ運用の強化費用として数百万計上している。スワブトライアルに係る費用も計上している。リモートでの確認検査面談の推進に掛かる費用も計上している。これら収入と支出の差し引きで約 1900 万円の赤字予算となっている。移植件数が減っていて厳しい数字になっているが、件数の推移を見ながら、寄付を増やしたりだとか支出の削減について考えて行きたい。

（主な意見）

＜小寺＞　件数が減るのは何とも残念なことであるが、代替えの移植法である臍帯血、特に血縁ハプロがブームであるから、それによって移植件数が減っている。しかし登録患者数と移植実施数を見ると依然として 5 割くらいしか移植ができていない。臍帯血移植や血縁ハプロ移植で良いのだという人が骨髄バンクドナーに登録するとは思えないので、結局バンクドナーから移植を希望しているのだけれども、できないということである。逆に言うならば今の倍の需要はあると考えられる。コーディネート期間短縮を始めとする色々な努力によってバンクドナーからの移植を希望する患者に高い確率 100%近くでバンクドナーからの幹細胞が届けられることを目指していきたい。事業計画のところで言うべきであったがホームページを抜本的に直すのか。

＜田中＞　はい、全面的に刷新する。

＜小寺＞　ホームページについて私の意見を言うと、最初の頁が少しごちゃついている。やはり爽やかなすっきりした印象を与えて、ドナー登録したい人はこれをクリックすればよいとか、バンクの移植実績データなどを見たい人はここをクリックしればよいとか、主要項目が第１頁に出るように。色々な漫画がたくさんあるが、それらはその次のクリックで良いと思う。そこら辺を十分に考えてやって欲しい。

＜浅野＞　人件費が退職者などにより減少していると説明があった。単年度の予算ではなく、長い目で見ると人件費が悪戯にとは言わないが膨れている部分がある。例えば本来管理職の仕事をしていない職員にも管理職相当の給与が出ている。その辺はきっちりしなければいけない。結果的に支出減になるが、人事というか給与体系が、必ずしもその人の実際の役割に合っていないのは改めていく必要があるのではないかと思う。

＜小寺＞　骨髄バンクは非常に公的な性格を持った組織で収入の成り立ちも寄付金を始めとして皆様の期待を担った財源になっている。運用に関しては厳正であるべきところは厳正にしたい。事務局長それで良いか。

＜小川＞　はい。その点についてもまた相談させていただければと思う。

7)　報告事項（敬称略）

（１）調整医師の新規申請・承認の報告

中尾ドナーコーディネート部長が資料に基づき説明した。

令和５年１月１日から令和５年１月 31 日に新たに申請・承認された調整医師の人数は５名、異動や辞退はなかった。合計で 1220 名である。

（２）寄付金報告

田中総務部長が資料に基づき説明した。

令和５年１月の実績は件数 1161 件、金額 1552 万 6778 円である。例年の１月と比較するとかなり多い金額になった。個人から大口の寄付が２件あった。令和４年度の累計としては金額１億 1249 万 9090 円となっている。

（主な意見）

＜小寺＞　相変わらずご寄付をたくさんいただいて感謝している。

（４）移植件数報告

田中総務部長が資料に基づき説明した。

2023 年１月末までの件数は国内ＢＭ592 件、ＰＢ251 件、国際の提供が合わせて４件で合計 847 件となっている。予算対比で 70%である。

以上